第639回 名曲シリーズ サントリーホール 19時開演

POPULAR SERIES No. 639 / Suntory Hall 19:00

指揮

Conductor

ヴァイオリン Violin

コンサートマスター Concertmaster

ウェーバー

WEBER

チャイコフスキー

TCHAIKOVSKY

「休憩] [Intermission]

ブラームス BRAHMS

松本宗利音 -p.6

SHURIHITO MATSUMOTO

辻 彩奈 -p.8

AYANA TSUJI

小森谷巧

TAKUMI KOMORIYA

歌劇 〈オベロン〉 序曲 [約9分] -p.10

"Oberon" Overture

ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35 [約33分]-p.11

Violin Concerto in D major, op. 35

- I. Allegro moderato Moderato assai
- II. Canzonetta: Andante III. Finale: Allegro vivacissimo

交響曲 第2番 二長調 作品73 [約43分] -p.12

Symphony No. 2 in D major, op. 73

- I. Allegro non troppo
- II. Adagio non troppo
- III. Allegretto grazioso (Quasi andantino)
- IV. Allegro con spirito

※当初の発表から出演者が変更されました。

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

^{太元弁} 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: **アフラック**

2

第606回 定期演奏会 サントリーホール 19時開演

山田和樹(首席客演指揮者)-p.7

鈴木康浩 (読響ソロ・ヴィオラ) -p.8

パッサカリア 作品 1 [約11分] -p.14

ヴィオラ協奏曲 [約29分] -p.15

YASUHIRO SUZUKI (YNSO Solo Viola)

KAZUKI YAMADA

KOTA NAGAHARA

Passacaglia, op. 1

Viola Concerto

長原幸太

SUBSCRIPTION CONCERT No. 606 / Suntory Hall 19:00

指揮

Principal Guest Conductor

ヴィオラ Viola

コンサートマスター Concertmaster

ウェーベルン

WEBERN

別宮貞雄

BFKKU

I. Adagio – Allegro moderato

II. Adagio affettuoso III. Andante – Allegro moderato

[休憩] [Intermission]

グラズノフ GLAZUNOV

交響曲 第5番 変口長調 作品55 [約34分] -p.17

3

Symphony No. 5 in B flat major, op. 55

- Moderato maestoso Allegro
- II. Scherzo: Moderato
- III. Andante
- IV. Allegro maestoso

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

協力: アフラック

$\frac{3}{9}$

第640回 名曲シリーズ サントリーホール 19時開演

POPULAR SERIES No. 640 / Suntory Hall 19:00

指揮

Principal Guest Conductor コンサートマスター

Concertmaster

リスト LISZT

R. シュトラウス

R. STRAUSS

[休憩]

ニールセン

山田和樹 (首席客演指揮者) -p.7

KAZUKI YAMADA

小森谷巧

TAKUMI KOMORIYA

交響詩〈前奏曲〉[約16分]-p.18

Les Préludes

交響詩 (死と変容) 作品 24 [約23分] -p.19

Tod und Verklärung, op. 24

交響曲 第4番 作品29 〈不滅〉 [約36分] -p.20

Symphony No. 4, op. 29 "The Inextinguishable"

I. Allegro — II. Poco allegretto

- III. Poco adagio quasi andante - IV. Allegro

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業) なれた 独立行政法人日本芸術文化振興会

※本公演では日本テレビ「読響プレミア」の収録が行われます。

3/13 %

第235回 土曜マチネーシリーズ 東京芸術劇場コンサートホール 14時開演

SATURDAY MATINÉE SERIES No. 235 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

3/14 sur

第235回 日曜マチネーシリーズ東京芸術劇場コンサートホール 14時開演

SUNDAY MATINÉE SERIES No. 235 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

指揮 **山田和樹** (首席客演指揮者) —p.7 ductor KAZUKI YAMADA

Principal Guest Conductor

ピアノ Piano

コンサートマスター

Concertmaster

コープランド

COPLAND

/ド **エル・サロン・メヒコ** [約11分] -*p.21* AND El Salón México

ガーシュイン

GERSHWIN

Piano Concerto in F I. Allegro

II. Adagio – Andante con moto

III. Allegro agitato

清水和音 -p.9

KAZUNE SHIMIZU

KOTA NAGAHARA

長原幸太

[休憩]

ヴィラ = ロボス

VILLA-LOBOS

ブラジル風バッハ 第9番 [約10分] -p.23

ピアノ協奏曲 へ調 「約31分] -p.22

Bachianas Brasileiras No. 9

I. Prelúdio : Vagaroso e místicoII. Fuga : Poco apressado

レスピーギ RESPIGHI **交響詩〈ローマの松〉**作品141 [約23分] *-p.24*

Pini di Roma, P. 141

|. ボルゲーゼ荘の松

||. カタコンブ付近の松

|||.ジャニコロの松

IV. アッピア街道の松

※当初の発表から出演者が一部変更されました。

主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

共催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術創造活動活性化事業)

^{太元弁} 独立行政法人日本芸術文化振興会

協賛: NTTコミュニケーションズ株式会社(3/14)

芸劇&読響ジュニア・アンサンブル・アカデミー プレコンサート

3月14日(日)の 《第235回 日曜マチネーシリーズ》 では、 開演前の13時35分から、 「芸劇&読響ジュニア・アンサンブル・アカデミー」 の受講生によるプレコンサートをコンサートホールで開催します。

松本宗利音

SHURIHITO MATSUMOTO, Conductor

新時代のシューリヒト 読響デビュー!



今後の音楽界を担う期待の若手指揮者の一人として注目を浴びる新星が、読響 に初登場。風光明媚な自然を思わせるブラームスの交響曲第2番を、瑞々しい感 性で叙情豊かに描くだろう。また、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲では、 新鋭・辻彩奈とのフレッシュなエネルギーあふれる競演に期待が高まる。

1993年大阪府生まれ。幼少より音楽、特にヴァイオリンに親しみ、相愛音楽教室、 センチュリー・ユースオーケストラに所属。京都堀川音楽高校を経て、東京芸術大 学指揮科を最優秀賞であるアカンサス賞を受賞して卒業。

指揮を尾高忠明、藏野雅彦、高関健、田中良和に、ヴァイオリンを澤和樹、曽我 部千恵子に師事し、芸大在学中にはダグラス・ボストック、パーヴォ・ヤルヴィのマ スタークラスを受講。

2017年4月から2年間、東京シティ・フィルの指揮研究員を務めて指揮者として の才能を開花させ、19年4月に札幌響指揮者に就任。これまでに、新日本フィル、 山形響、仙台フィル、群馬響、名古屋フィル、京都市響、大阪響、大阪フィルに客演。 確かな構成力と発想豊かな解釈、生命力あふれる音楽で頭角を現している。

名前の「宗利音」は、クラシック音楽ファンの両親が、親交のある20世紀の世界 的指揮者カール・シューリヒトの夫人に依頼し、名付けられた。

指揮

山田和樹

(首席客演指揮者)

KAZUKI YAMADA, Principal Guest Conductor

世界で羽ばたく "ヤマカズ"が 多彩なプログラムを披露



ダイナミックな音楽で聴衆を魅了する日本のエースが、約1年ぶりに登場。今回 は趣向を凝らした三つのプログラムで、新たな刺激をもたらしてくれるだろう。 2018年4月から読響首席客演指揮者を務めており、任期を23年3月まで延長した。

東京芸術大学指揮科で小林研一郎、松尾葉子に師事。09年ブザンソン国際指 揮者コンクール優勝を機に、ヨーロッパでのキャリアをスタートさせた。これまで にベルリン放送響、サンクトペテルブルク・フィル、パリ管、フランクフルト放送響、 フィルハーモニア管、ドレスデン・フィル、BBC響、チェコ・フィルなどへ客演して いる。また、小澤征爾の代役として12年のサイトウ・キネン・フェスティバル松本 でオネゲルの劇的オラトリオ〈火刑台上のジャンヌ・ダルク〉を振り、17年にはモ ーツァルト 〈魔笛〉 でベルリン・コーミッシェ・オーパーにデビュー。 18年にはモン テカルロ歌劇場でサン = サーンス 〈サムソンとデリラ〉 を指揮して好評を博すなど、 オペラでも活躍。モンペリエ音楽祭、マントン音楽祭など国際的な音楽祭にも招 かれている。

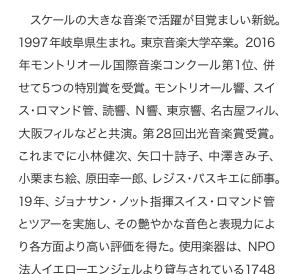
スイス・ロマンド管首席客演指揮者を経て、現在はモンテカルロ・フィルの芸術 監督兼音楽監督、バーミンガム市響の首席客演指揮者、日本フィル正指揮者、東京 混声合唱団音楽監督、横浜シンフォニエッタの音楽監督などを務めている。渡邉暁 雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞な ど受賞多数。PENTATONE、EXTONなどから多数のCDをリリースしており、昨 年10月には読響との「マーラー:巨人」(DENON)が発売された。ベルリン在住。



ヴァイオリン

辻 彩奈

AYANA TSUJI, Violin



年製ジョアネス・バティスタ・グァダニーニ。現在、

フランスと日本を拠点に活動の幅を拡げている。

読響シリーズ公演に初登場。



ピアノ **清水和音** KAZUNE SHIMIZU. Piano

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。今年、デビュー40周年を迎える。1960年東京生まれ。ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブランに師事。81年、弱冠20歳でロン=ティボー国際コンクールで優勝。83年プラハの春音楽祭にてプラハ室内管と、84年ブラティスラヴァ音楽祭のオープニングでスロヴァキア・フィルと共演し成功を収めた。これまで、ロジェストヴェンスキー、ゲルギエフ、アシュケナージらの指揮でロンドン響、マリインスキー歌劇場管、シドニー響などと共演を重ね、国内外で広く活躍。読響とも何度も共演している。CDもベートーヴェンのピアノ・ソナタ集ほか、ソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数リリースしている。桐朋学園大学・大学院教授。

']//4 ^{定期}

8

読響が誇るソロ・ヴィオラ奏者。豊潤な響きと表現力で、中音域の要としてオーケストラを積極的にリードする。1976年新潟県生まれ。桐朋学園大学を卒業後、ヴィオラに転向。2001年からベルリンのカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、その後ベルリン・フィルの契約団員となる。帰国後、06年読響ソロ・ヴィオラ奏者に就任。日本クラシック音楽コンクール全国大会ヴィオラ部門最高位ほか受賞多数。ヴァイオリンを辰巳明子、ヴィオラを岡田伸夫に師事。これまでに、カンブルラン指揮のベルリオーズ〈イタリアのハロルド〉、下野竜也指揮のヒンデミット〈白鳥を焼く男〉でソリストを務め絶賛されたほか、《読響アンサンブル・シリーズ》でも充実した演奏を展開。今回、別宮貞雄のヴィオラ協奏曲の蘇演に並々ならぬ意欲を燃やしている。



ヴィオラ

鈴木康浩 (読響ソロ・ヴィオラ)

YASUHIRO SUZUKI (YNSO Solo Viola), Viola

9

Program Notes

ドイツ・ロマン派の先駆者カール・マリア・フォン・ウェーバー (1786~1826)の 〈オベロン〉は、"ドイツの国民的歌劇の創始者"の名を決定付けた〈魔弾の射手〉の約5年後に書かれた作曲者最後のオペラ。ロンドンのコヴェント・ガーデン王立歌劇場の依頼で1825年初めに着手され、1826年3月に完成、同年4月12日、当劇場にてウェーバー自身の指揮で初演された。しかし結核を患っていた彼は、約2か月後の6月5日にロンドンで客死した。

オペラ自体は、ドイツの詩人ヴィーラントの詩「オベロン」に基づいてプランシェなる作家が作成した英語の台本によるもの。「妖精の王オベロンと王妃ティターニアが口論し、いかなる困難にも負けずに愛し合う男女を見るまでは和解しないと決めてしまう。だが、和解したいオベロンは寵臣の妖精パックを呼んで相談。若い騎士ヒュオンとバグダッドの太守の娘レツィアを魔法によって相思相愛の仲にし、危険に遭った際に呼ぶようヒュオンに魔法の角笛を授ける。結局、二人は困難を乗り越えて結ばれ、王と王妃も仲直りする」といった当時流行りの魔法劇である。しかしながら、大成功を収めた初演後は、台本の弱さゆえに上演機会が大幅に減少した。その中でこの序曲だけは、ウェーバーを代表する管弦楽作品の一つとして頻繁に演奏されている。

序曲は本編の旋律を素材に構成されている。アダージョ・ソステヌートの序奏部は、柔らかな魔法の角笛(ホルン)で始まり、木管楽器の軽やかな動きが妖精たちを表す。緩やかな音楽が強音で止まるとアレグロ・コン・フオーコの主部に移行。細かな上行旋律がクレッシェンドする第1主題が出され、次第に高揚していく。頂点に達すると魔法の角笛が2度鳴らされ、クラリネットが柔和な第2主題第1句を、ヴァイオリンが跳ねるような第2主題第2句を呈示。その後は各主題が入れ替わりながら突き進み、輝かしい終結を迎える。

〈柴田克彦 音楽ライター〉

作曲: 1825~26年/初演: 1826年4月12日、ロンドン/演奏時間: 約9分 楽器編成/フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、 ティンパニ、弦五部 ロシアの巨匠ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー (1840~93) が残した 唯一のヴァイオリン協奏曲。ベートーヴェン、メンデルスゾーン、ブラームスの各曲 と共に当ジャンルの代表作となっている。

1878年春、前年の結婚破綻による神経衰弱をスイスのレマン湖畔のクラランで癒していたチャイコフスキーは、若手ヴァイオリニスト、コテークに紹介されたラロの〈スペイン交響曲〉(内容は華麗なヴァイオリン協奏曲)に刺激を受けて構想が湧き上がり、わずか1か月ほどで本作を完成させた。そしてロシアの第一人者レオポルド・アウアーに初演を依頼したが、「演奏不能」との理由で拒否されてしまう。しかし、ロシアのドイツ系奏者アドルフ・ブロズキーの尽力により、3年後の1881年12月にウィーンでの初演が実現。当地の大批評家ハンスリックから「悪臭を放つ音楽」と酷評されたものの、ブロズキーが積極的に紹介し続けた結果、大きな人気を獲得し、ついにはアウアーも進んで演奏するようになった。

曲は、情熱と哀愁に満ちた聴き応え満点の音楽。協奏曲としては民俗的な情緒が際立ち、チャイコフスキーならではの旋律美も魅力をなしている。重音その他ヴァイオリンの技巧的な見せ場も多い。

第1楽章 アレグロ・モデラート〜モデラート・アッサイ のびやかでスケールの 大きな第1主題と叙情的な第2主題を軸に、華やかさと哀感が交錯しながら進行。 技巧的なソロが縦横に展開される。

第2楽章 カンツォネッタ、アンダンテ 愁いをたたえたト短調の緩徐楽章。弱音器を付けたヴァイオリンによる甘美な歌が綿々と続き、中間部ではやや明るめの曲調に変わる。切れ目なく次楽章へ。

第3楽章 フィナーレ、アレグロ・ヴィヴァチッシモ 躍動的な終曲。ロシアの舞曲トレパック風の歯切れ良い第1主題と、若干テンポを落として奏されるやはり民俗舞曲風の第2主題を軸に、熱狂的な展開を遂げる。

〈柴田克彦 音楽ライター〉

作曲: 1878年/初演: 1881年12月4日、ウィーン/演奏時間: 約33分 楽器編成/フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、 弦五部、独奏ヴァイオリン

ブラームス 交響曲 第2番 二長調 作品73

ドイツ・ロマン派の大家ヨハネス・ブラームス (1833~97) が残した四つの交響曲は、ベートーヴェン以来の傑作との誉れ高い。そのうち第1番は、20年に及ぶ労苦の末、43歳にして世に出された。そして翌1877年、肩の荷が下りたのか、今度はわずか3か月ほどで第2番が完成された。ブラームスは同年、アルプスを望む南オーストリアのヴェルター湖畔の村ペルチャッハで夏を過ごし、風光明媚な環境にも後押しされて本作を一気に作曲。12月ウィーンで初演され、第3楽章がアンコールされるなど大成功を収めた。

この曲は、祝典的な音楽で重用された二長調の調性と、彼の交響曲の中で唯一、短調の楽章が存在しない点も相まって、明るさやのどかな幸福感が横溢している。 だが同時に、寂寥感、哀感や推進力に富んだ場面も多く、その混在がブラームスならではの醍醐味をもたらしている。

冒頭にチェロとコントラバスで柔らかく出される「ニー嬰ハーニ」の3音が曲全体の基本動機となり、形を変えて随所に登場する。また彼の交響曲の中で唯一チューバが用いられ、トロンボーンと共に柔らかな響きを作り出すのも特徴的だ。

第1楽章 アレグロ・ノン・トロッポ 3拍子の牧歌的な楽章。序奏もなく呈示される第1主題と温かく流麗な第2主題を中心に、明朗かつ豊麗な音楽が展開される。

第2楽章 アダージョ・ノン・トロッポ 息の長い音楽が綴られていく、若干憂いを帯びた緩徐楽章。冒頭でチェロが出す寂しげな主題を軸に進行し、途中で木管楽器が出す優美な主題が対照される。

第3楽章 アレグレット・グラツィオーソ(クアジ・アンダンティーノ) オーボエの素朴な主題に始まる舞曲風の楽章。急速な部分が2度挟まれる。

第4楽章 アレグロ・コン・スピーリト ざわめくような第1主題と喜びを湛えて広がる第2主題を軸に進む、輝かしく活気に充ちたフィナーレ。最後の畳み込みは圧巻だ。

〈柴田克彦 音楽ライター〉

作曲: 1877年/初演: 1877年12月30日、ウィーン/演奏時間: 約43分 楽器編成/フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、 チューバ、ティンパニ、弦五部